

# 海部郡沿岸海藻植生調査

團 昭紀・吉見圭一郎

近年、大型海藻の減少が県南海域で問題となってきた。また、これら植物を餌とするアワビ類の減少傾向もあり、藻場の減少が、これら生物の資源量の低下に関連があることが懸念されている。大型海藻の消長は、水温などの海洋環境の変動により影響されると考えられるが、長期間にわたる海藻植生の変化をモニタリングすることにより、どのような過程をたどり「磯焼け」になるのか環境要因をあわせ考察することは、今後の藻場造成等の事業を行う上で重要である。このため、今後10年間、定期観測地点のモニタリングを行うこととした。平成11年度は、定期観測地点設定の予備調査を行った。

## 方 法

### 1) 調査日及び調査地点

- |                 |     |        |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 平成11年6月16日  | 牟岐町 | 古牟岐地先  |
| (2) 平成11年6月19日  | 由岐町 | ウメトラ地先 |
| (3) 平成11年7月23日  | 由岐町 | ウメトラ地先 |
| (4) 平成11年10月20日 | 牟岐町 | 砂美の浜地先 |
| (5) 平成11年10月21日 | 牟岐町 | 小島の浜地先 |
| (6) 平成11年11月18日 | 牟岐町 | 古江地先   |
| (7) 平成11年11月18日 | 牟岐町 | 大戸地先   |
| (8) 平成11年11月30日 | 穴喰町 | 那佐のワンゴ |
| (9) 平成11年12月9日  | 由岐町 | 鹿の首崎地先 |

### 2) 調査方法

各調査地点とも、基本的に汀線付近から沖へ100mほど調査ライン（計測ロープ）を伸ばし、潜水によりライン周辺の海底地形及び海藻植生を記録した。また、1m水深ごとに1mの方形枠を置き、海藻と動物を採取した。また、水中写真も撮った。

## 結 果

### 1) 平成11年6月19日

#### 由岐町 ウメトラ地先（図1の①）

由岐漁港外防波堤を出て、田井ノ浜よりの場所。水深5mまでは砂地の底質に岩が散在している。5m以深は砂地の海底となっている。水深5～7mの範囲

に、自然石及びコンクリートブロックの囲い礁が設置されている。

水深0～2mの範囲の岩礁上には、ホンダワラ類の豊かな植生が見られる。水深4mから立ち上がる岩礁は、頂端部付近にのみトゲモクとアラメの大型褐藻が生育するが、全体的にはヘライワズタ、ウミウチワ、マクサが疎生、点生する。水深5～6mの投石上にはマクサが優占していた。水深6～7mの囲い礁上には、ヨレモクモドキ、カジメが優占する植生が見られた。

### 2) 平成11年10月20日

#### 牟岐町 砂美の浜地先（図1の②）

水深0～6mは岩礁帯で構成される。水深0～4mはヒジキ、ヨレモク、アラメ、オオバモクが密生している。4～6mでは大型海藻は無くなり、石灰藻のみとなり、ムラサキウニが目立つ。6～7mは砂地の底質上のところどころ転石帯が存在する。転石には5cm程度の高さの小型のアラメが生えることもあるが、石灰藻に被われている。

### 3) 平成11年10月21日

#### 牟岐町 小島の浜地先（図1の③）

水深0～3mは岩礁帯で構成される。3～4mでは、砂地の底質上に転石が多く存在する。岩礁上部はヒジキが、下部はアラメ、オオバモク、ヤハズグサが点生する。3～4mの転石帯にはアラメ、オオバモクが生えていることもあるが、ほとんどが無節石灰藻である。転石上には浮泥はなく、砂が薄く被っている。転石下には、ウニ、トコブシの稚貝が多い。

### 4) 平成11年11月18日

#### 牟岐町 古江地先（図1の④）

水深3～6mに、砂地の上に2トン自然石を2段積みした投石帯がある。3m付近には天然岩礁もある。天然礁にはホンダワラ類が密生する。自然石上は浮泥に被われ、石灰藻が優先する。コンクリートブロックの囲い礁上には、ホンダワラ類、小型アラメ、ウミウチワが密生する部分もある。水深を問わず、囲い礁には投石に比べ海藻が多く生える。

5) 平成11年11月18日

牟岐町 大戸地先 (図1の⑤)

牟岐漁港南側外防波堤を出て、仏崎までの間。小さな湾であるため静穏度が高い場所である。水深2~4mは、砂地と岩礁が交互に見られる場所である。岩礁にはアラメ、オオバモクが優占している。また、場所により淡水の影響が見られ、この範囲のアラメの活力は良好に見えた。水深3~4mに生えるアラメは茎だけとなったものが目立った。水深4m付近の砂地には、0.4~0.7トンの投石が見られ、表面は有節石灰藻と砂に被われていた。

6) 平成11年11月30日

穴喰町 那佐のワンゴ (図1の⑥)

調査地点は閉鎖的な小さな湾の入り口付近。調査ラインは、海面に出た岩礁基部から岩盤部分、及び砂地上の転石帯に設定した。岩盤斜面上は、有節石灰藻が被う。ムラサキインコの群落が被う部分もある。岩盤及び転石上には大型海藻は見られない。しかし、転石上にはホンダワラ類(フタエモク?)の基部のみが残っているのが観察された。砂地上にはナマコが、転石にはシラヒゲウニが多く生息。

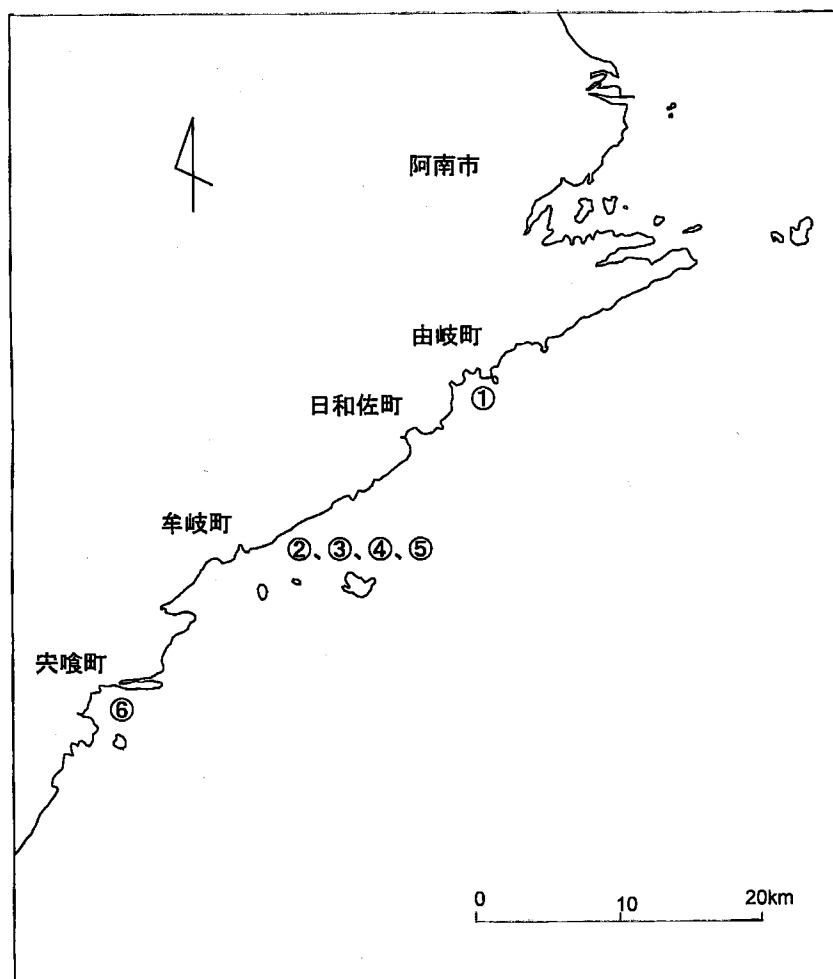


図1 海藻植生調査地点図